

歌ノレノ래 147

『娘船頭』(チョニヨペッサゴン)

(처녀 뱃사공)

山根 俊郎

「韓国歌謡史 2」

名古屋にお住まいの大先輩である朴燦鎬さんが3月に待望の「韓国歌謡史2」(1945~1980年)韓国のミジブックスから韓国語版を出版されました。おめでとうございます。

一冊を私に送っていただき感激しています。解放後の韓国歌謡史を詳しく記述されており、その緻密な研究に頭が下がる思いです。ちょうど、前号で紹介した韓国の若い研究家であるイ・ジュンヒイ(イ・ジュンヒイ)氏が編集をされており驚きました。この本は、きっと韓國の大衆文化史の研究の発展におおいに貢献するものと期待されます。

『娘船頭』(チョニヨペッサゴン)

(처녀 뱃사공)

この『娘船頭』(作詞・尹富吉、作曲・韓福男、歌黄貞子・59年)を私が初めて聞いたのは、76年に出された男性デュオ金과 은(金と銀)の『옛노래 모음』(昔の歌集)であった。そのテンポの良さと健気な娘心の歌詞に魅了された。



金과 은 (金と銀)

なお、金과 은(金と銀)は、当初「TWO ACE」と名乗っていたが、朴政権の英語禁止政策により金과 은(金と銀)と改名させられたものと理解している。

日本の韓国カラオケでは、8506-61元祖・黄貞子のテンポの遅い伴奏の『娘船頭』なので往生している。正直、歌いにくい。

いつか韓国のTVにスポーツ選手(シルム選手時代のカン・ホドンだったか?)が出演してこの歌を歌っていた。お座敷芸?で鍛えられていて、なんとズボンのベルトをはずして金具側を床に叩きつけて踏みつけて、端を両手で持って、櫓に見立てて漕ぐ動作をしながら滑稽に歌うので大受けであった。

♪洛東江の川風が チマをなびかせて
軍隊に行つたお兄さんから
便りが来たよ
若い娘が船頭をしていたら
誰が何と言う
年老いた父母を私がお仕えして
エ～～イヤ テ～～イヤ
櫓をこぐ 櫓をこぐ

♪洛東江の川風が 胸をなせれば
静かな娘の心に波が立つ
お兄さんが除隊すれば
嫁にやる
お母さんのその言葉に顔を赤くする
エ～～イヤ テ～～イヤ
櫓をこぐ 櫓をこぐ

歌手黄貞子(황정자)

歌手黄貞子について朴燦鎬著「韓国歌謡史2」(1945~1980年)は、P213~220に記述している。(大略)

新民謡の独歩 黄貞子

黄貞子は、本名が黄昌順。ソウル出身。1929年生まれと推測される。幼いころから巡回劇団「黄金座」の舞台に立った。8歳の頃に同年配の金龍大とケンガリ、チャンゴを叩きながら新民謡を歌っていた。1944年に金龍大とともに中国の天津に行き、新太陽樂劇団に加入して孫牧人などと活動した。解放後にソウルに戻り、いろんな樂劇団の舞台に立ち人気歌手となった。金龍

大と同居していたが、金龍大は 1948 年に日本の神戸に行き、同胞が経営する白頭レコードの専属歌手になった。黄貞子は 6.25 勃発以後の避難時代にはオリエントレコードの専属歌手になり、楽劇舞台にも立った。還都以後は、ユニバーサルレコードから『情の浦口』(정든 포구) のヒットがあり、1950 年代中盤から都美都レコード、新世紀レコード、アセアレコード (아세아 레코드) などの専属歌手となり、『娘船頭』(처녀 배사공) 59年、『春の風あなたの風』(봄바람 님바람) 58年、『ノレカラック チャチャチャ』(노래가락 차차차) 54 年、『オドンドン打令』(오동동 타령) 54 年などのヒットを連発して人気絶頂を極めた。

このように黄貞子は、韓福男の作曲した歌を歌い、ヒット曲を多く飛ばしたのである。

『娘船頭』の歌碑

この『娘船頭』の歌碑が 2000 年 10 月に慶尚南道 咸安郡 代山面 西村面の洛東江の支流の南の川面に建てられた。咸安郡が‘国民愛唱曲’として愛されているこの歌の元祖が即ち、このアギヤンの渡し (악양나루터) であった、という実話を広く宣伝して、観光資源に活用しようと建てたものである。

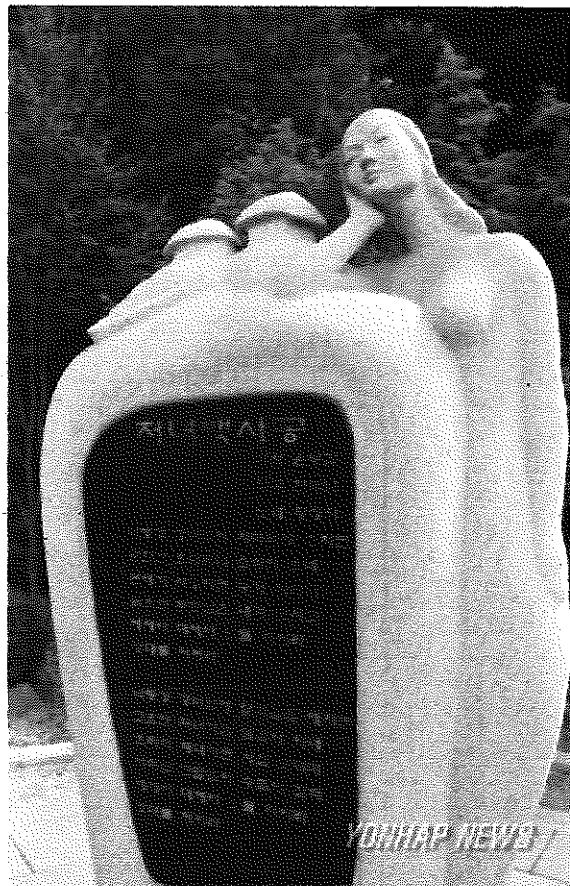
しかし、2008 年 8 月になり、対岸の隣村から‘生き証人’のハルモニが名乗りを上げて話題になった。



イ・ピルナムさん

慶尚南道 宜寧郡 正谷面 赤谷面が故郷であるイ・ピルナム (이필남 72、咸安郡 法守面輪外里在住) さんである。

2008. 8. 28 聯合ニュース「私が『娘船頭』の主人公だ」によれば、イ・ピルナムさんは、



2008. 8. 25 聯合ニュースより引用

1954 年 2 月のある日暮れ時に 18 歳で洛東江の支流で船頭をしていて、咸安郡 代山面から巡回劇団の尹富吉 (歌手尹恒起、尹福姫の父親) の一行 4 名を船に乗せて、家庭の事情を話したが、それが歌詞になった。父が急死して 4 人娘の 3 女であったイ・ピルナムさんが母と 2 人で船頭をして家計を支えていたが、一番年長の人 (尹富吉) が「なぜ若い娘が船頭をしているのか?」の質問に恥ずかしくて「お兄さんが軍隊に行っているので、お兄さんが除隊すれば嫁にやるとお母さんが言っています...」と顔を赤らめ答えたという。その日、一行はイ・ピルナムさんの家に泊まり歌を歌って騒いでいた、と証言した。彼女は 2 年後に結婚した。

彼女は、慶尚南道 咸安郡 代山面 西村面の洛東江の支流の南の川面に建てられている『娘船頭』の歌碑の裏面に書かれた歌の‘由来’が間違っているので正したいために名乗りを上げたという。
(終わり)

良貞記

공사별



歌子貞手